

令和 7 年 7 月 1 1 日

「ポスト I S S 時代を見据えた我が国の地球低軌道活動の在り方について (案)」へのコメント

日本大学国際関係学部

永井 雄一郎

令和 7 年 7 月 1 5 日開催の国際宇宙ステーション・国際宇宙探査小委員会は、所用のため欠席となりますので、「ポスト I S S 時代を見据えた我が国の地球低軌道活動の在り方について (案)」について書面にてコメントさせていただきます。

ポスト ISS 時代には、米国を中心に民間事業者が商業宇宙ステーションを管理・運営し、これに日本の民間企業も「主体的に参画して利用サービスを提供する」ことが目指されていますが、日本の民間事業者が現行 ISS の「きぼう」に代わる日本独自の地球低軌道活動拠点を建設・運用することを目指していくのか否かは、今後の日本の活動のあり方にとって重要な視点になると感じています。

例えば、現行の ISS での取り組みについては、「きぼう」を活用した国際協力や国際貢献、さらにはそれによる日本のプレゼンスの確保といった意義について記載されていますが、これらはまさに日本が独自に「きぼう」という活動拠点を有していたからこそ実現できた部分も大きいように思います。このように日本が独自に活動拠点を有することによって生まれる意義を、ポスト ISS 時代にどのように受け継いでいくかという点も今後の活動のあり方にとって重要なポイントになるように感じているところです。

以上